



野菜の需給・価格動向レポート(平成２６年２月１８日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類		1月の価格情報			2月の価格情報		生育及び価格の２月の見通し
		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブ ロック旬別平均販売価額		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・ 近畿ブロック旬別 平均販売価額	
			中旬	下旬			
葉 茎 菜		88.05	127	127	88.05	108	・愛知産は、10月の台風後に定植されたものの出荷時期となり、最近の降雪の影響もなく順調な生育となっているものの、引き続き小玉傾向で、平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・千葉産は、2月14日の大雨による影響により、少なめの出荷となっているものの、今後は出荷量が回復し、平年並みの出荷の見込み。 ・愛知産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		83.73	129	128	83.73	111	
	 (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ)	229.99	223	200	229.99	250	・千葉産は、最近の低温の影響で生育が停滞していることに加えて、2月14日の降雨と強風の影響により、葉折れ等が発生し少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。 ・埼玉産及び茨城産は、2月8日及び14日の降雪の影響で収穫作業が滞り、少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、平年を上回って推移する見込み。
		450.51	480	490	450.51	513	
		61.12	60	53	61.12	62	・茨城産は、11月の低温等の影響により、小玉傾向になっていることに加え、2月14日の降雪の影響で収穫が滞り、少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、平年を上回って推移する見込み。
		68.7	63	64	68.7	64	
		307.66	535	515	307.66	406	・群馬産及び埼玉産は、2月8日及び14日の降雪と最近の低温の影響で、少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。 ・茨城産も、少なめの出荷の見込み。 ・千葉産は、最近の低温の影響で生育が停滞し、少なめの出荷の見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		341.25	507	543	341.25	387	
		233.85	255	268	233.85	202	・この時期は、トンネル栽培となっており、静岡県、香川産及び兵庫産ともに、1月下旬から2月のはじめの気温の上昇により、生育が進み、順調な出荷となっており、今後も順調な出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。
		226.75	266	258	226.75	199	
		76.15	132	134	76.15	136	・北海道産は、生育期の少雨等の影響で全体的に小玉傾向の貯蔵ものの出荷となっており、平年より少なめの出荷の見込み。 ・北海道産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		76.15	141	135	76.15	139	
果 菜		370.98	361	354	370.98	303	・宮崎産は、最近の低温と曇雨天の影響で一時的には出荷量が落ち着いてきたものの、樹勢がよいことから、平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産は、最近の低温の影響により、少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。 ・高知産は、平年並みの出荷の見込み。 ・宮崎産及び千葉産の出荷の減少が見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
		350.33	329	333	350.33	283	
		332.6	321	329	332.6	329	・熊本産は、1月の好天により多めの出荷となっていたが、最近の低温の影響で落ち着いた量の出荷となり、今後も平年並みの出荷の見込み。 ・栃木産は最近の低温の影響から着色に時間がかかっているものの、着果も良く順調な生育となっており、平年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。
		311.06	322	325	311.06	321	
		389.03	370	369	389.03	367	・高知産は、生育は良好で、順調な出荷となっており、今後も平年並みの出荷の見込み。 ・福岡産は、最近の低温の影響により、少なめの出荷となり、今後も少ない出荷の見込み。 ・福岡産の出荷が少なめと見込まれることから、平年並みで推移している価格は、平年をやや上回って推移する見込み。
		397.74	351	342	397.74	344	
		551.24	643	678	551.24	657	・宮崎産及び茨城産は、2月上旬の低温と曇雨天による日照不足の影響で、生育が停滞していることと、花落ち等がみられることから、平年より少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。 ・高知産は、順調な生育で、平年並みの出荷の見込み。 ・宮崎産及び茨城産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		513.91	617	648	513.91	625	
根 菜		79.03	69	70	79.03	75	・神奈川産は、2月14日の降雪の影響で収穫作業が滞り、少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。 ・千葉産は、2月14日の降雨の影響で収穫作業が滞り、少なめの出荷になっていることに加え、強風によりトンネルがはがれたため品質低下が見られ、少なめの出荷の見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、平年を上回って推移する見込み。
		80.47	74	73	80.47	68	
		101.05	136	129	101.05	129	・千葉産は、生育時の少雨と低温の影響から小ぶり傾向に加え、2月14日の降雨の影響により収穫作業が滞っていることから、平年より少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		104.73	130	112	104.73	109	

種類		1月の価格情報			2月の価格情報		生育及び価格の2月の見通し	
		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブ ロック旬別平均販売価額		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・ 近畿ブロック旬別 平均販売価額		
			中旬	下旬				上旬
い も	さといも 	217.95	251	225	217.95	238	・埼玉産は、掘り取りが終了しており、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、夏場の高温、少雨の影響から少なめの出荷となっている。 ・千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、平年を上回って推移する見込み。	
		219.65	331	286	219.65	281		
	ばれいしょ 	88.17	104	102	88.17	98		・北海道産は、貯蔵ものの出荷となっており、平年並みの貯蔵量。鹿児島産は、夏場の高温少雨の影響から玉付きが少なかったものの、肥大が進み、大玉傾向となっていることから、平年並みかやや上回る出荷の見込み。 ・出荷の大宗を占める北海道産の貯蔵ものの計画的な出荷が見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き現状程度の水準で推移する見込み。
		88.17	99	98	88.17	93		

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)
2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、12月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、5,152gで前年比100%、購入金額は、2,093円で同111%となり、購入数量はほぼ前年並み、購入金額はかなり上回った。

また、小売物価統計によると、1月のキャベツの小売価格は、272円で過去5か年平均比138%、レタスは、654円で同97%となり、キャベツは去5か年平均を大幅に上回り、レタスはやや下回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額（1人当たりの購入数量と購入金額）

年	過去5か年平均		平成24年		平成25年			
	購入数量（g）	購入金額（円）	購入数量（g）	購入金額（円）	購入数量（g）	前年比	購入金額（円）	前年比
1月	4,271	1,557	4,189	1,634	4,243	101	1,669	102
2月	4,447	1,610	4,499	1,735	4,553	101	1,652	95
3月	4,797	1,765	4,584	1,851	4,961	108	1,769	96
4月	4,723	1,834	4,620	1,904	5,019	109	1,809	95
5月	5,055	1,905	4,945	1,948	5,257	106	1,861	96
6月	5,048	1,881	5,103	1,875	5,249	103	1,897	101
7月	4,421	1,691	4,386	1,675	4,456	102	1,783	106
8月	4,318	1,689	4,245	1,618	4,422	104	1,741	108
9月	4,839	1,783	4,916	1,703	4,577	93	1,863	109
10月	5,280	1,840	5,242	1,761	5,225	100	1,932	110
11月	5,030	1,630	5,039	1,602	4,852	96	1,806	113
12月	5,140	1,837	5,169	1,888	5,152	100	2,093	111

主要野菜の小売価格（東京都区部）
（単位：円/kg）

	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成26年	5か年比（%）	過去5か年平均	平成26年	5か年比（%）
1月	198	272	138	673	654	97
2月	211		0	605		0
3月	200		0	498		0
4月	248		0	469		0
5月	169		0	371		0
6月	137		0	317		0
7月	153		0	322		0
8月	140		0	415		0
9月	149		0	506		0
10月	158		0	449		0
11月	162		0	421		0
12月	162		0	521		0

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」注：過去5か年平均は、平成20～24年の平均。

資料：総務省「小売物価統計調査報告」注：1 過去5か年平均は、平成21～25年の平均。
2 平成26年1月の値は、1月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

1月の野菜の輸入を植物防疫統計で見ると、たまねぎは、前年比174%（中国は同165%、アメリカは同225%）の3万6千トン、にんじんは、同111%（中国は同104%、台湾は同529%）の6千トンとなり、たまねぎ、にんじんとともに大幅な増加となった。ねぎは、同84%（中国は同83%）の45千トンとなり、前年を大幅に下回った。

野菜の輸入数量

(単位：トン、%)

区分	平成23年		平成24年		平成25年1~12月		平成25年12月	
		前年比		前年比		前年同期比		前年同月比
生鮮野菜	915,091	112	946,931	103	854,057	90	95,353	132
加工野菜	1,803,510	107	1,909,671	106	1,854,295	97	165,070	99
野菜合計	2,718,600	109	2,856,601	105	2,708,352	95	260,423	109
うち中国産野菜合計	1,409,984	110	1,458,418	103	1,415,901	97	148,785	119
中国産シェア	52		51		52		57	

資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入数量

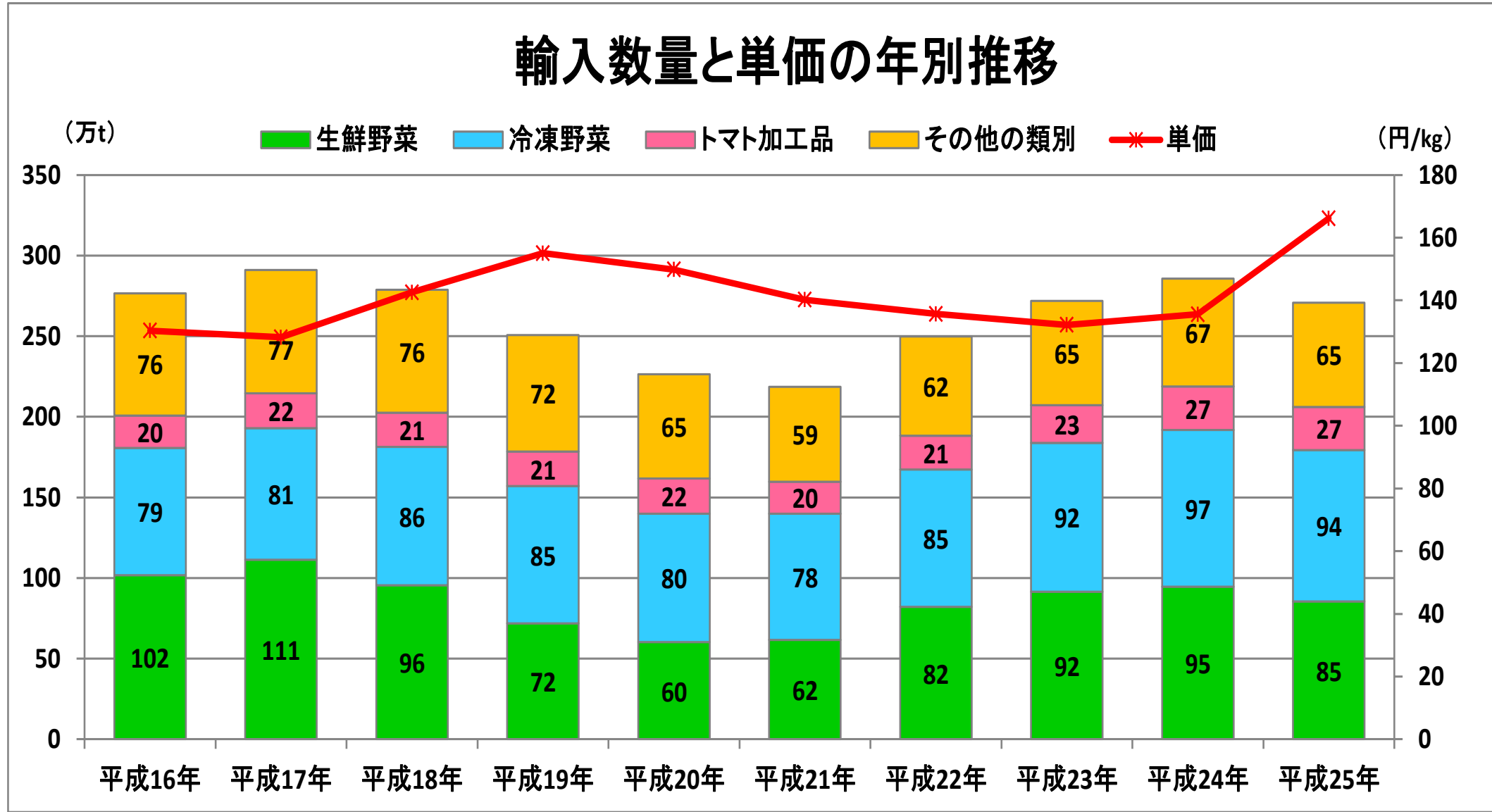
(単位：トン、%)

品目	輸入先	平成25年1月(A)	平成26年1月(B)	(B)/(A)
たまねぎ	合計	20,540	35,836	174
	中国	17,167	28,327	165
	アメリカ	3,167	7,127	225
にんじん	合計	5,691	6,340	111
	中国	5,533	5,769	104
	台湾	75	397	529
ねぎ	合計	5,357	4,486	84
	中国	5,338	4,454	83

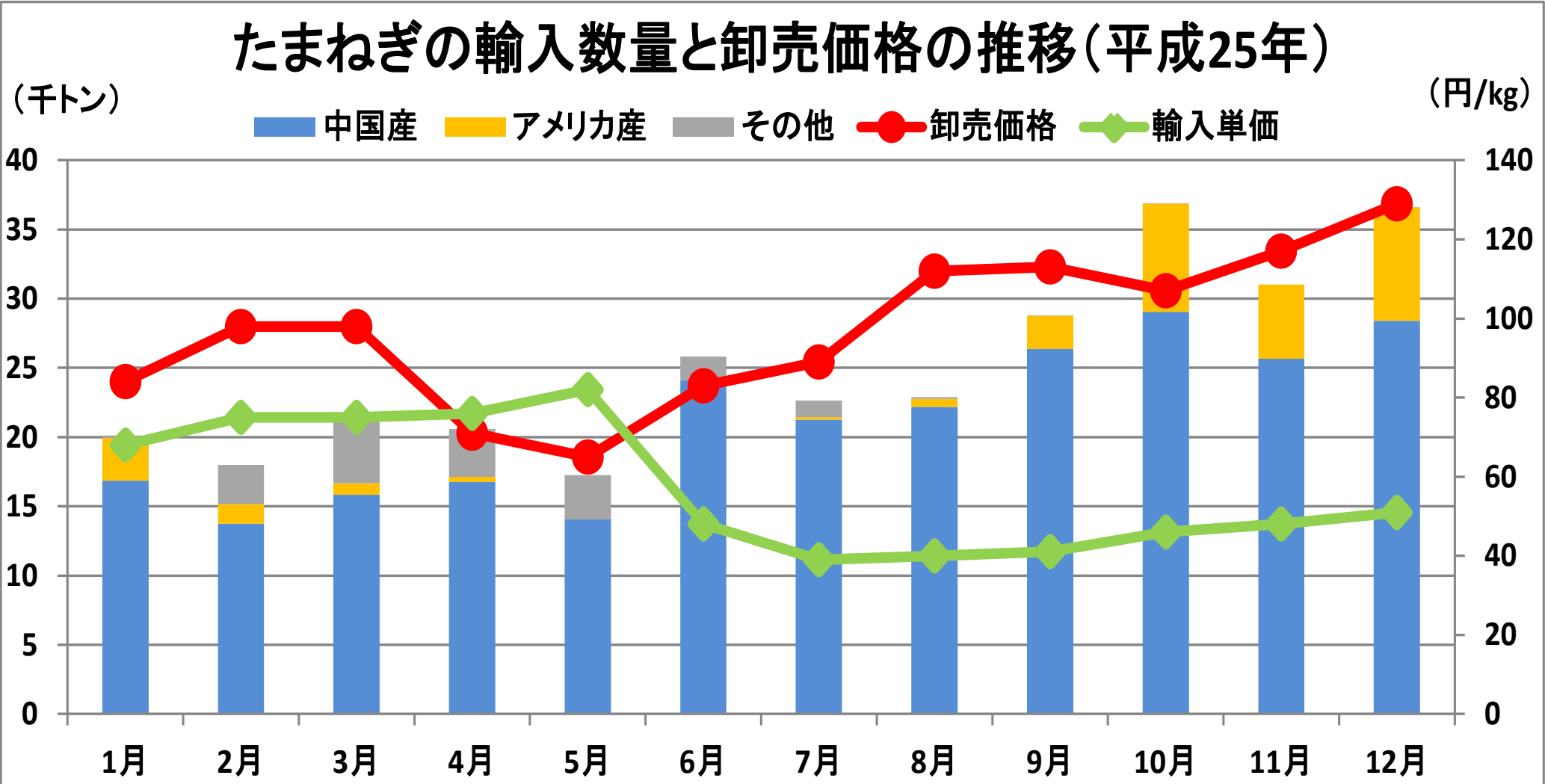
資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成26年1月は、速報値。

4 トピック ― 平成25年の輸入動向 ―

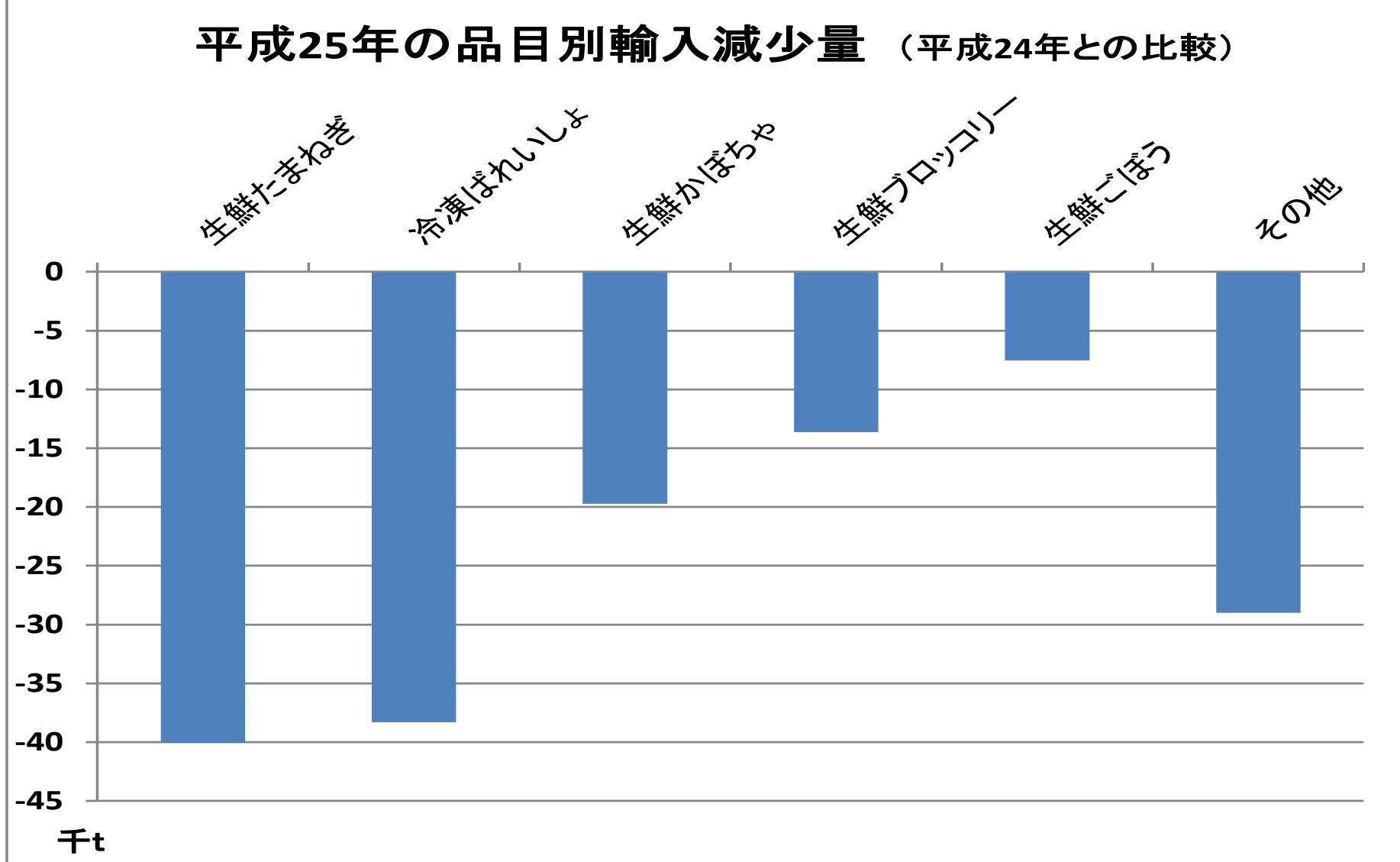
平成25年の野菜全体の輸入量は、前年比95%の271万トンとなり、4年ぶりに下回った。
類別にみると、生鮮野菜は同90%の85万トン、冷凍野菜は同97%の94万トン、トマト加工品は同99%の27万トン、その他は同97%の65万トンとなった。
前年と比較して、減少量が多かった品目は、生鮮野菜ではたまねぎ、かぼちゃ、ブロッコリーが続き、冷凍野菜ではばれいしょであった。
これら品目の減少については、
① たまねぎは、1～8月は、前年収穫の北海道産及び今年の春収穫の佐賀産が豊作であったことに加え、5月までは前年の不作等により中国産の輸入単価が高かったこと
② かぼちゃは、主な輸入先国であるニュージーランド産が少雨の影響により、不作であったこと
③ ブロッコリーは、主な輸入先国であるアメリカが作付面積の減少や天候不順の影響で、不作であったこと
④ 冷凍野菜のばれいしょは、円安の影響で輸入単価が高くなっていることに加えて、需要の大きなウエートを占めるファストフード等向け需要の低迷があるとみられること等が影響しているとみられる。
このように、年間計でみれば輸入量が減少となったものの、昨年秋以降の国産野菜の品薄基調を反映して、最近では、たまねぎをはじめとして生鮮野菜の輸入量が9月以降は増加傾向で推移しており、今後の輸入動向の注視が必要である。
また、輸入野菜は、加工・業務用向けに仕向けられることが多いことから、国内の野菜産地における加工・業務用の生産体制の強化を図ることが求められている。



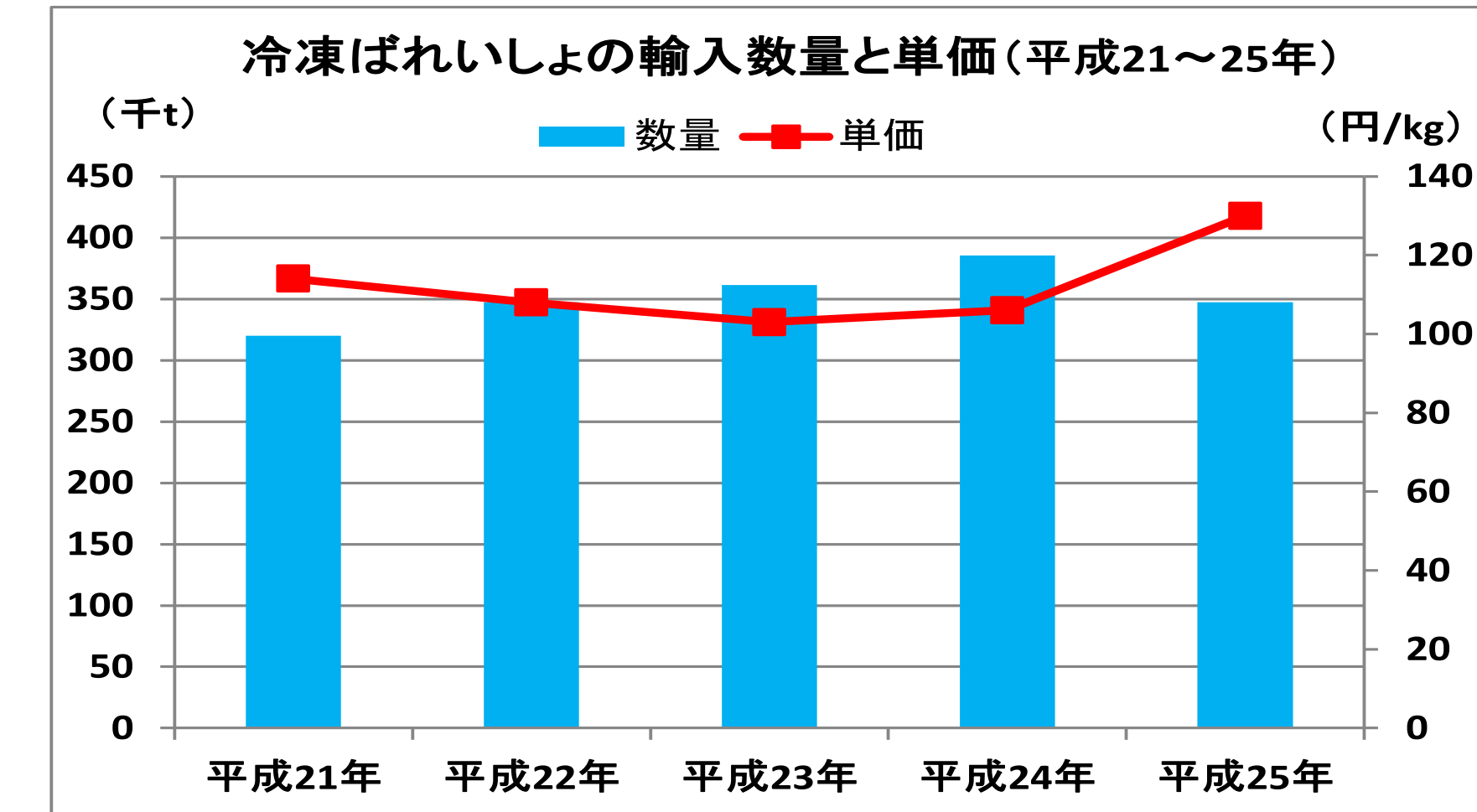
資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」



資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」、「青果物情報センター」
注：卸売価格は、東京都中央卸売市場の価格



資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」



資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、斎藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。